



# 碧南ロータリークラブ週報

第2525回例会 平成22年11月24日(水)

● 会長 奥田 雪雄 ● 幹事 新美 宗和 ● 会場監督 (SAA) 伊藤 正幸

2010-2011年度 国際ロータリーのテーマ

- 例会日 毎週水曜日 12:30
- 例会場 碧南商工会議所ホール
- 事務局 碧南商工会議所内 〒447-8501 愛知県碧南市源氏神明町90
- TEL <0566> 41-1100 FAX <0566> 48-1100
- ホームページ: <http://www.hekinan-rc.jp/>
- E-mail: [info@hekinan-rc.jp](mailto:info@hekinan-rc.jp)
- 会報委員 新美雅浩・鈴木健三・西脇博正・菅原 優



## ● 齊 唱

ロータリーソング「今日も楽し」

## ● 本日のメニュー

和風弁当 大正館



奥田雪雄会長

## 会 長 挨 拶

今日は講師が加藤良邦君でございますので、いつもより少しお時間をいただいて地区大会の報告を致します。

2010～2011年度国際ロータリー第2760地区大会が、あまロータリークラブのホストにより11月20日、21日名古屋市のウェスティンナゴヤキャッスルで開催されました。

第一日。(2492名の参加)

豊島徳三R1会長代理は御挨拶のなかで、20世紀初頭、ポールハリス氏がシカゴにおいて国際ロータリーの礎を創設し、約一世紀を経て更なる展開を図るべき局面に立たされている事は否めません。しかし、根幹に脈々と続く創成期の精神は、会員増強、拡大、財団強化を急ぐ余り、否めたり、本末転倒等は厳に慎むべきであると。

ロータリーにおける奉仕活動は、ロータリーから指示されるのではなく、個人個人が率先して行動するものである。一定の制約はやむを得ないと思うが、ロータリー活動は楽しいものであると、努力次第によっては楽しめるものと少し目線を変えてみては如何なものでしょうかと、おっしゃっておられました。

田嶋好博ガバナーは、公式訪問をさせて頂いた折、会員の皆様が大変熱心にロータリーの諸活動・奉仕に取り組んでおられるお姿を拝見し、感動を覚えると共に多くのことを教えられました。それは、皆様の人を思いやる気持ち(人間愛)がなすものであると思ったことです。と。

松前憲典ガバナーエレクトは、田嶋年度より、松前年度は「継承と発展」「会員増強とクラブ活性化」「奉仕と親睦」を大切なテーマとしていきたい。そして、サーヴィス精神に基づき、明日への発展を願ってまいります。と。松前氏は現在79歳。次年度80歳になられます。碧南ロータリーのお歴々にもまけないでお役目の程ぜひともお願いします。松前氏はR1会長代理ご夫妻歓迎晩餐会でもアトラクション、高橋誠のアコースティック・バンドの演奏は感激いたしました。

第二日目(2649名の参加)

財部誠一氏の講演「日本経済復活のキーワード"グローバルセンス"」には聞き入ってしまいました。

世界全体での実質成長率は、新興国だけで世界の70%以上の経済成長を支えている。明らかに

成長の構図は新興国中心になっている。いわゆる人口規模がものをいう時代になってきたわけです。中国、ブラジル、インド、インドネシア、ベトナム、タイ、マレーシアの7カ国でだいたい10億世帯くらいあるわけですから。

インド人は大変親日的であるし、メイド・イン・ジャパンに対する憧れが非常に強い。また、台湾では、メーカーが量より質へと転換がおこっています。そのために、ものづくりの品質を担保するために日本の部品メーカーを買収したいという企業が増えている。彼らは「日本の部品を使えば、メイド・イン・ジャパンになれる」とまじめ顔でいいます。アジアの中間層が台頭してくると、消費者はより品質の高いものが欲しくなります。これまで高価だと思われていた日本ブランドが手に入るようになってくるわけです。

そして、もう1つ。世界屈指のコングロマリット（GE）が仕掛けるリバース・イノベーションの話がされました。

新興国で部品開発をし、それを先進国市場に投入するというビジネススタイル、それがGEのいうリバース・イノベーションであります。10年前はアメリカ、ヨーロッパ、日本、その他地域に分けて、グローバル市場について議論をしていましたが、今では中東、ブラジル、カナダ、オーストラリア、ロシアといった「資源大国」、あるいは中国やインドなどの「人口大国」が議論の中心であります。そして、アメリカ、ヨーロッパ、日本は、「その他地域」になってしまいました。即ち、「資源大国」や「人口大国」こそが未来を左右する主戦場とみなされるようになってきたわけです。

そのことをふまえ、ものづくりに優れた日本の中小メーカーが活用し、利用し、どう生き残るかを考えるべきであると。大きなチャンスであると。

日本のものづくり技術は、未来永劫、他国に負けることはない、財部さんは講演なさいました。以上で地区大会の報告を終わります。

## 幹事報告

- ・例会変更は幹事報告のとおりです。
- ・ロータリーの友事務局より、海外でのメイクアップの経験のある方は事務局に申し出ていただきたいとお願いがきています。後日取材にきて2011年2月号に掲載されます。



新美宗和幹事

## 委員会報告

### 〈出席奨励委員会〉

総会員数73名(内出席免除者15名の内出席者9名)出席者56名

出席対象者 56/66名 出席率 84.85%

欠席者17名(病欠者1名) 前々回修正出席率 100%

### 〈ニコボックス委員会〉

※三週連続出席率100%の場合は記念品を差し上げます。

加藤 良邦君 本日卓話をつとめさせていただきます。又、本日会報の担当の方には申し訳ありません。

鈴木 敏弘君 この度、会議所の窯業部会長を命ぜられました。第一線を退いた私かと思い固辞しましたが、原田前部会長の命令で…。

奥田 雪雄君 } 地区大会の参加ご苦労様でした。  
新美 宗和君 }  
平岩 辰之君 }

角谷 信二君 長田昌昇さん、新美真司さんにお世話になりました。

清澤 聡之君 報恩講が盛大に勤まりました。

- 竹中 誠君 地区大会にて昼食を11階の展望レストランにて頂きました。名古屋城の紅葉が大変美しかったです。
- 山中 寛紀君 名古屋グランパスエイト悲願のJリーグ初優勝達成です。あとは1月の天皇杯へ向け益々期待を高める今日この頃です。
- 榊原 健君 皆様のご支援のおかげをもちまして、グランパスJリーグ初優勝致しました。大変ありがとうございました。

## 卓 話

「落語の祖と称される安楽庵策伝上人は浄土宗  
西山深草派総本山誓願寺第55代法主です。

そして又、布教師になれなかった私！」 会員加藤良邦君



今年の9月29日に落語家の方がここで卓話をされましたが、その時うちの本山の第55代の法主策伝上人が落語の祖と称されていることを思い出しましたので、本日はその策伝上人についてお話をさせていただきます。

安楽庵策伝上人は天文23年(1554)、戦国の世に武将、茶人として著名な金森家(兄は後の飛騨高山城主・金森長近)に生を受けた。7歳で岐阜県浄音寺、策堂文淑上人について出家、「策伝」の名を得る。永禄7年(1564)11歳にして上洛、洛東大本山禅林寺、智空甫淑上人に師事して浄土教を学び、浄土宗西山流〈西谷義〉の法脈を相承した。出家してもなお千石余の領地を持ち、天正5、6年(25、6歳)頃から約15年間、山陽地方に赴き7カ寺を次々に建立、再建した。慶長14年(1609)56歳で美濃の名刹、西山禅林寺派檀林立政寺を数カ月預かり、4年後の慶長18年(1613)、60歳で誓願寺法主に就任した。

茶人としても、安土桃山時代から江戸時代初期にかけての著名な人であった。古田織部正門であり、小堀遠州、松花堂昭乗ら織部系の人々と互いに親交を続けた。「安楽庵裂」「安楽庵茶室」「安楽庵好み」「安楽庵釜」の呼称と共に策伝上人の名は茶道史上消えることはない。

文人としては、『醒睡笑』が有名である。元和元年(1615)から同9年(1623)にかけて、自らの体験談、見聞録を出来るだけ面白く、さらに諷刺、教訓、啓蒙的な要素を附加して巧みに書き下ろしたものである。その滑稽の縦横なことは、まさに落語の教科書と称えるべきもので、その数々の咄は、落語中興の祖・烏亭焉馬を経て延々今日にまで及んでいるのであって、策伝上人が落語の始祖と言われているのは不自然ではない。茶人・古田織部が、秀吉の「御咄の衆」(主君の話し相手となる老巧の士)であったという事実も、策伝上人という笑話の天才が生まれるに至る機智性の血脈を知る上で注目される。

『醒睡笑』を完成するやかねてより隠居の志あった策伝上人は塔頭、竹林院を創立し、境内にあった茶室、安楽庵に入り、自ら安楽庵と号した。

寛永19年(1642)正月8日、89歳で示寂するまで19年間、竹林院を訪れる風流人は絶えなかった。

陰鬱な戦乱の世でも常に明るい面に眼を向けて、楽天的に笑い続けることを長寿の妙楽とし、ことに風雅と戯笑に満ちた晩年における生活は、文字通り悠々自適の余生であった。

以上で卓話をおわらせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

次回例会案内 平成22年12月8日(水)  
卓話「最近の経験から感じた注意すべき落とし穴とおまけ  
—相続／贈与などに関連して—」 会員 森田雅也君